

アカシア属の材料について、伐採時に供試木を調査したデータから樹幹の細りの様子を紹介した。細りの値は、*A. mangium* では8年生のものの方が30年生のものより小であった。これは、植栽方法の違いによって生じた生育状態を反映しているものと思われる。また、ハイブリッドの細りは*A. mangium* の30年生のものより若干小であった。

造林木の細りの実態の一例を紹介したが、今後もこうした調査が行われ、利用を意識した樹体の情報が蓄積されることを期待する。

【文献】 1) (財)国際緑化推進センター：熱帯造林木利用技術開発等調査事業（平成6年度調査事業報告書）1995. 3, 同センター 2) 加藤亮助：熱帯造林木利用技術開発調査施業技術部会調査報告，熱帯造林木利用技術開発等調査事業（平成9年度調査事業報告書）pp. 161～185, 1998. 3, 同センター

#### 図書紹介

◎樹海一夢，森に降りつむ一高橋延清著 A5版 302pp. KK世界文化社，東京，1999. 10刊 価格2,415円（税を含む）

本書は“どろ亀さん”こと高橋延清氏（東京大学名誉教授）の詩，随筆47篇を，東京大学北海道演習林創設100周年の記念に集めたものである。これまでに活字になっているものも含めて，森林に対するこぼれるばかりの思い入れがいかにも自然に記されており，同氏の森・樹，そしてそこに住む生き物に対する独特の哲学—メルヘンが感じられる。本書の中核は，「人類の将来を託す大実験」というテーマで要約されている「林分施業法」で，これは同氏の森づくりの基本とされている。ごくかいつまんで言えば，森の取り扱いの最小単位である林分ごとに適した方法で森を育てることである。

筆者はこのところ熱帯の植林に関わっているが，林分施業法の考え方は熱帯でもあてはまることを痛感しており，亜寒帯林で実証された森林施業ではあるが，あえて本誌に紹介したいと考えた所以である。実際，植生の特性にもよるが，いじけた植栽木に引き換え，在来種の更新木がむしろ立派に育っていることがあり，熱帯でも育成天然林施業を見直すことの大切さを改めて認識している。高橋教授自身，熱帯林でも亜寒帯林でも基本は同じで，林分施業法の考え方はその国，その地域に適した施業として行われると述べておられる。

本書には，水越 武 氏が同教授の思想を理解して撮りためた，樹海に因んだ美しいカラー写真およそ60葉が添えられており，それらを通して森の仕組みに接することができる楽しい書物である。（山口夏郎）